



編集・発行

県南教育事務所



「郷土愛を育む」

白河市教育委員会教育長 芳賀 祐司

本市の教育大綱は「先人のたゆまぬ努力により紡いできた、郷土の長い歴史と豊かな文化を受け継ぎ、将来につなげ、さらに発展させるために、次に掲げる人づくりに努め、『未来を切り拓く人間力』を育みます。（次に掲げる人づくりについては省略）」であり、小1～中3までの9年間を通して、自分の生まれた白河の歴史・文化を知り、ふるさとに誇りを持つことを目的に「白河の歴史文化再発見！事業」を行っている。昔の遊びや地域の昔話を知ることから始まり、小峰城や南湖公園、白河の関はもちろんのこと、古墳や遺跡、松平定信公の業績等を学んでいる。

そのような中、令和7年のNHK大河ドラマ『べらぼう～薦重栄華乃夢噺～』の中で、松平定信公が重要な役どころとして登場することとなり、本市では定信公ゆかりの地である「白河」の魅力を全国にPRし、その業績を改めて知ってもらうために様々なイベント等を実施してきた。

教育委員会としても郷土愛を育むよい機会ととらえ、中学校では従前より定信公を詳しく学ぶことから、小学校の全学年において「松平定信公を学ぶ」特別出前授業を行った。低学年は南湖公園をつくったことを、中学年は白河藩主としての功績を、高学年は白河藩主及び老中としての功績を学んだ。（紙面の関係で内容を詳しく書けないのが残念である。）

授業を担当したのは、益子朗指導主事。13校で16日間、低中学年は各1コマ、高学年は2コマ連続の授業で私も参観したが、映像を使い、時折クイズもあり、子どもたちは集中して学んでいた。子どもたちから「定信公が危機を救ってくれなかったら白河は大変なことになっていた。」「桜（稚児桜）の木の下に置いた赤ちゃんを育てるのは優しいと思った。」「日本で初めて誰でも入れる『士民共楽』の南湖公園を作ったところがすごい。」「江戸でも人足寄せ場を作り貧しい人々を救ったのがすごいと思った。」等の感想があった。

授業後の担当者の感想は「どの学校、どの学年も興味を持って話を聞き、積極的に授業に参加してくれた。低中高それぞれに合わせた教材を作り、授業を組み立てるのは予想以上に難しかったが、これを機に定信公について調べ直し、市内各所をはじめ、県立図書館、清澄白河、国立博物館、八丁堀、牧之原市、京都などを訪ねたのも大いに授業に役立ち、またよい思い出となった。」とのことである。

令和7年の大河ドラマを機会に定信公について学ぶことを通して、子どもたちは白河の歴史を知り、さらにふるさとに誇りを持つことができたのでは、そして、未来を切り拓く人間力の育成につながったのではと思っている。

令和7年度教育・文化関係表彰

□ 文部科学大臣表彰

○優秀教職員表彰（個人）

西郷村立熊倉小学校 養護教諭 荒井 真紀子

○キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰

棚倉町立棚倉中学校

□ 県教育委員会表彰

○学校教育功労者

白河市立白河中央中学校長 菊池 淳一
棚倉町立棚倉中学校長 川上 一美

○学校保健功労者

(元) 白河市立白河第一小学校 学校医 田口 武人
白河市立釜子小学校 学校医 江藤 泰彦

○教育・文化関係表彰（優秀教職員の部）

白河市立白河第二中学校 主査 丹内 庄元
福島県立白河高等学校 教諭 佐藤 裕展

○永年勤続教職員表彰

小・中学校 12名
県立学校 7名

○教職員研究論文

(個人) 【特選】西郷村立羽太小学校 教諭 若松 優

○ふくしまっ子体力向上優秀校表彰（優秀校）

白河市立白河第三小学校 西郷村立熊倉小学校

○ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞

矢吹町立三神小学校 棚倉町立高野小学校 矢吹町立矢吹中学校

○ふくしまっ子元気大賞表彰

白河市立関辺小学校 西郷村立羽太小学校 中島村立吉子川小学校

○ふくしまっ子健康マネジメントプラン事業食育推進優秀校表彰（優良賞）

白河市立五箇小学校 西郷村立川谷小学校

□ 県学校歯科保健優良校表彰

○優 秀 賞 白河市立白河第一小学校 白河市立釜子小学校
西郷村立羽太小学校 中島村立滑津小学校○努 力 賞 白河市立東中学校 中島村立中島中学校
棚倉町立棚倉中学校○活動奨励賞 西郷村立米小学校 中島村立吉子川小学校
白河市立白河南中学校

□ 県学校保健会表彰

○学校保健功労者

学校薬剤師 中山 良一（白河市立白河南中学校）

□ 第28回よい歯の幼稚園・認定こども園表彰

○優秀賞 泉崎村立泉崎幼稚園

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進 学校教育課 令和7年度事業の成果

生徒指導と道德教育の充実

今年度は「誰一人取り残されない学びの場・居場所の保障」と「学校教育全体で取り組む道德教育の推進」を重点として、各校への支援に取り組んでまいりました。

「誰一人取り残されない学びの場・居場所の保障」については、生徒指導訪問等を通して、全ての学校において児童生徒の悩み等を丁寧に聞き取るなど、一人一人に寄り添いながら各校の実態に応じて、組織的に「居場所づくり」が行われていることがよくわかりました。中には、ICTやアセスメントシートを有効に活用している学校があり、これらの好事例を各種研修会や訪問を通して、紹介してまいります。また授業改善グランドデザインで示しております「学び出す、学び合う、学びとる」授業により、生徒指導と学習指導の一体化が図られるよう支援してまいります。

「学校教育全体で取り組む道德教育の推進」については、道德教育推進校である矢吹町立三神小学校において「思いやりの心を持ち、よりよく生きていこうとする子どもの育成」を目指し、地域・家庭との連携を図った道德教育の推進に取り組んできました。地区別推進協議会当日は、教員だけでなく保護者や学校運営協議会委員などの地域住民が参加した協議が行われました。地域住民からは「いろいろな方と交流や意見交換ができ、様々な価値観に気付くことができた。」などの感想があり、有意義な話し合いの場となりました。今後も研修等を通して、道德教育の充実を図ってまいります。

健康マネジメント能力の育成

全国体力・運動能力調査の結果、過去3年間、全ての調査対象学年で全国平均及び県平均を上回っていましたが、今年度は小5、中2の男子が全国平均、県平均を下回る結果となりました。前年度との比較においても、全ての調査対象で年々、緩やかに体力が低下している現状にあります。また、肥満傾向児出現率については、小中学校男女ともに令和4年度をピークに減少傾向にありましたが、今年度は中学校男女で増加しています。

学齢期に培われた健康マネジメント能力は、その後の人生における健康づくりの基盤となります。児童生徒が健康マネジメント能力を身に付けるための有効なツールとして自分手帳をご活用いただきたいと思ひます。

なお、来年度から「オンライン版自分手帳」の活用が開始されます。現在、県内3校にご協力いただき、実証研究を進めています。これまで4～5月に行っていた小中高등학교体育担当者連絡協議会は、来年度に限り「オンライン版自分手帳」活用講習会となりますので、体育担当の先生方だけでなく、「オンライン版自分手帳」の活用を推進する先生方(管理職、体育主任、養護教諭、食育推進C0等)にご参加いただきたいと思ひます。

全国体力・運動能力調査 合計得点の比較				
	小学校5年男子		小学校5年女子	
県南域内の平均値	52.03		54.26	
全国得点・県南比較	53.03	▲1.00	53.98	0.28
県得点・県南比較	52.60	▲0.57	54.65	▲0.39
R6得点比較	52.82	▲0.79	56.13	▲1.87
	中学校2年男子		中学校2年女子	
県南域内の平均値	40.88		47.87	
全国得点・県南比較	42.06	▲1.18	47.46	0.41
県得点・県南比較	42.55	▲1.67	48.13	▲0.26
R6得点比較	42.61	▲1.73	48.20	▲0.33

※体力・運動の能力調査の県南域内の平均値は、全実施者の平均値

資質・能力の育成と学力向上

今年度は、学力向上担当者等研修会事前説明会(オンライン開催)を10月14日に、学力向上担当者等研修会を12月9日に参集により開催しました。

事前説明会では、ふくしま学力調査の特徴や分析方法について演習を中心に研修を行いました。ふくしま学力調査の分析ツール「分析支援プログラム」の活用について理解を深める機会をとなりました。その後、各校で分析ツールを用いて分析を行っていただくと共に、今後の学力向上策を検討いただきました。それを踏まえ、12月の本研修会では、グループ協議で、今後の授業、学級経営、家庭学習等の改善・充実等について話し合いを行いました。「本校は、分析から〇〇に課題があり、学校全体で〇〇に取り組むようにしています。」など、エビデンスに基づく学校の取組を真剣に意見交換する先生方の姿に今後の学習指導等の充実・改善への熱量を大いに感じる協議となりました。また、義務教育課指導主事による講義「『学びの変革』に向けて」、福島大学人間発達文化学類の坂本篤史准教授による「これからの授業研究と資質・能力の育成」の講演により研修をさらに深めることができました。ぜひ、本研修会での学びを各校の学力向上推進計画作成に生かしていただきたいと思ひます。



活発に行われたグループ協議

特別支援教育の充実

今年度は「多様な学びの場における教育の充実・整備の推進」と「切れ目のない支援の充実」を重点にあげ、様々な取組を行ってまいりました。

「多様な学びの場における教育の充実・整備」に向けては、各種訪問における指導助言の他、特別支援教育に関する専門性向上を目指し、地域支援体制整備事業による相談・研修支援に取り組んでまいりました。12月末現在の依頼件数は、相談支援29件(延べ87名)、研修支援31件で、特別支援学校の地域支援センターと連携し、各園・学校のニーズに応じた支援をすることができました。また、7月の学級・授業づくりセミナーでは、特別支援教育センターと連携し、研修コンテンツを活用した講座の実施により、児童生徒の行動の背景要因を考える視点について理解を深めることができました。

「切れ目のない支援の充実」に向けては、4月に個別の教育支援計画の作成・活用を啓発するリーフレットを各園・学校へ送付させていただきました。各学校にご協力いただいた令和7年度特別支援教育調べにより、県南地域の特別支援学級及び通級指導教室における、保護者参画での個別の教育支援計画の作成率が99.8%となり、本人や保護者を主体とした作成の推進が進んでいることを示しています。支援を必要とする児童生徒が安心して学び続けることができるよう、活用・引継ぎについてもよろしくお願ひいたします。

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるために ～コミュニティ・スクール(CS)と地域学校協働活動の一体的推進～

今年度もコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査(調査基準日令和7年5月1日)が文部科学省より公表されました。その調査内容と県南地区の状況を比較すると、次のようになります。

①全国公立小・中・義務教育学校におけるコミュニティ・スクールの導入率(県南地区:51校中38校)
【全国 71.6%(前年度より+6.3%) 福島県 51.4%(前年度より+4.1%) 県南地区 74.5%(前年度より+7.9%)】

②全国公立小・中・義務教育学校における地域学校協働本部整備率(県南地区:51校中41校)
【全国 77.4%(前年度より+2.9%) 福島県 81.6%(前年度より+3.1%) 県南地区 80.3%(前年度より+7.8%)】

県南域内のコミュニティ・スクールの導入率は全国・県より高い数値になっています。学校だけではなく地域住民等と連携・協働し、学校と地域が相互にパートナーとして一体となり、子どもたちの成長を共に支えていくことが必要であり、今後もコミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、理解を深める機会をつくってまいります。

〔今年度の取組より〕地域連携担当教職員等研修会 12/5
栃木県那須町教育委員会指導主事 田代大介氏を講師に招き、講義・演習を行いました。

講義「地域の中に学校があるから学校の中に地域がある～実践紹介～」では、学校を核とした地域との協働を通して、地域とともにある学校の取組について、那須町での具体的な実践事例をもとにご教示いただきました。

演習「地域学校協働活動・ミニ演習」では、ゼロから生み出すのではなく、今ある地域資源をいかし、地域を巻き込んだ活動ができることを演習を通して、学んでいただきました。参加者からは、「学校と地域がパートナーとして連携・協働する大切さや地域との関わり方について、理解することができた」等の感想がありました。



学 校 紹 介

「小中一貫の特色を生かした教育活動」

「2月21日」

西郷村立川谷小・中学校

川谷小・中学校は、「一貫した9年間の学びを通して、未来を創る子どもを育成する」という教育理念のもと、平成31年4月1日より小中一貫教育をスタートさせ、その実現に向けた様々な教育活動を行っています。特色のある取組として、川谷小学校は「阿武隈川の源流と河口でつながる宮城県の荒浜小学校との交流活動」、川谷中学校は「ジャガイモの種芋植えや収穫、販売までを行う農園作業」などを行っており、保護者や地域の手厚いサポートを受けながら、川谷ならではの「川谷らしい」教育活動を展開しています。

また、「多様性と調和を重視した『誰一人取り残さない』学校」を目指して小中一貫を意識した取組の充実も図っており、小規模校ならではのよさを生かした「小・中学校教諭の相互乗り入れ授業」「合同の学校行事(運動会や文化祭)」なども、特色の一つとなっています。

今後も、小中一貫の特色(強み)を生かして、一人一人に寄り添い、よさを伸ばすことができる教育活動を行っていきます。



白河市立白河中央中学校

昭和45年(1970年)2月21日、白河中央中学校は火災に遭い、当時の校舎は焼失しました。約1800人が学んでいた巨大な校舎が紅蓮の炎をあげて燃え、防火壁が倒れ、轟音と共に焼け落ちる姿を見て生徒はもちろん、多くの白河市民は、恐ろしく、そして悲しく感じたことでしょう。その後は、新しい校舎ができるまで、小学校の校舎などに間借りをして授業が行われたと聞いています。ですから、新校舎が完成して、気兼ねなく学習に取り組めた喜びは大きかったと思います。きっと、その嬉しさと未来に対する熱い想いが、校舎はもとより、学校を愛する心となり、本校のスローガン「校地は緑、校舎は美、我らは気力」が誕生したのでしょう。本校では、清掃のときに今でも、生徒は「ひざ当て」を当てて、校舎の隅々まで磨いています。学校を愛する先輩方から、脈々と受け継がれてきた、本校の伝統です。

2月21日は、白河中央中学校にとって学校への愛を再確認する大切な一日です。



一年を振り返って～新任の先生方から～



「学校を核とした、

矢祭の未来づくり」

矢祭町立矢祭中学校

校長 本田 栄敏

矢祭町の豊かな自然の中、町・教育委員会・園・学校が手を取り合い、「矢祭わかあゆ学園」(CS)として、協力・連携し、15年間の子ども達の健やかな成長を見守り、支援しています。中学校では若い教員が多い中、共に学びながら、熱量をもって指導にあたっています。子ども達は、多くの人との関わりの中で、個性豊かな輝きを放っています。「良い地域は、良い学校を作る」そして、「良い学校は、良い地域を作る」をモットーに、地域と連携しながら、学校を核として未来の地域を担う人材を育てていきます。



「一期一会」

中島村立滑津小学校

教頭 加藤 彰子

新任教頭として滑津小学校に着任してから、まもなく1年。振り返ってみると、教頭としてどうありたいかという思いはあっても、担任時代とは違う業務に追われる毎日だったと思います。そんな私を、校長先生をはじめとした先生方、子どもたち、保護者や地域の皆さんなど本当にたくさんの方々に温かい言葉をかけていただき、そして多くのことを教えていただきながら、なんとか過ごすことができました。そういう人との出会いを大切に、これからも謙虚に学び続けることを忘れず、子どもたちの笑顔のために頑張っていきたいと思っています。



「学び続ける姿勢」

福島県立修明高等学校

教諭 上遠野 菜

教師として過ごしたこの一年は、学びと反省の連続でした。授業づくりや生徒との関わり方に悩み、思うようにいかないことがありましたが、その一つ一つが貴重な経験となりました。

生徒が理解できた時に見せる表情や、前向きに取り組む姿勢に私自身が励まされました。教師は教える存在であると同時に、生徒から多くを学ぶ存在であると実感しています。

私自身も学び続ける姿勢を忘れず生徒と共に成長し続ける教師でありたいです。



「学びや喜びを力に変えて」

福島県立西郷支援学校

教諭 矢吹 穂香良

この1年は、試行錯誤の毎日でしたが、悩んだ際に親身なご助言や心温まるお言葉をくださる先生方や、私を先生として受け入れてくれる子どもたちに支えられ、今日まで多くの学びを得ることができました。特に、自分が準備した手立てによって、子どもたちができることが増え、生活に活かされたことや児童と思いが通じ合った瞬間の喜びは、私にとって何よりの励みとなっています。今後も、子どもたちの成長に携わることができる幸せを噛み締めながら、子どもから、保護者から、同僚から学ぶ姿勢をもち続け、目の前の子どもたちのために全力を尽くしていきたいです。

令和7年度各種事業及び研究指定校紹介

- ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業
- 道徳教育総合支援事業
- 人権教育総合支援事業

- イノベーション人材育成推進教員活用事業(算数・数学)
- イノベーション人材育成推進教員活用事業(理科)
- 不登校・いじめ等対策推進事業 :スハ°シャルサホ°ートルーム :学 習 サホ°-ター
- 学力向上支援アドバイザー事業
- 専門教育魅力発信応援事業

- 「“ひがししらかわ”輝くふる郷」体験事業
- スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
- スクールカウンセラー派遣事業

- 〈本務校〉 みさか小 熊倉小 矢吹小 棚倉小
- 〈推進校〉 三神小
- 〈推進地域〉 矢祭町教育委員会 やまつりこども園 矢祭小 矢祭中
- 〈実践校〉 熊倉小 西郷二中
- 〈実践校〉 みさか小 白河中央中
- 〈実践校〉 白河二小 白河中央中 白河二中 矢吹中 棚倉中 鮫川村
- 〈村への派遣〉 棚倉小 社川小 高野小 近津小
- 〈配置校〉 泉崎二小 近津小 東中
- 〈実施校〉 白河実業高校
- 〈実践校〉 東白川郡内全小学校 8校
- 〈委託〉 西郷村 中島村 矢吹町 棚倉町 塙町 矢祭町
- 〈配置校〉 白河二小 みさか小 表郷小 熊倉小 小田倉小 滑津小 中畑小 三神小 矢吹小 善郷小 泉崎一小 棚倉小 塙小 域内全中学校